

問題〇1〇 平安京と弘仁・貞観文化①②

01〔 天皇 〕は784年、〔 京 〕に遷都したが、翌年に〔 **造宮使藤原 暗殺事件** 〕や、その後の度重なる水害・疫病の多発で、この都を捨て、794年〔 京 〕に再遷都した。

02 桓武天皇の父の光仁天皇の784年、東北の蝦夷の首長である〔 〕が反乱をおこし、多賀城が一時陥落した。

03 桓武天皇は〔 〕を征夷大将軍に任じ、蝦夷征討をすすめた。

04 802年には現在の岩手県の北上川中流域に〔 〕が築かれ、鎮守府をここに北進させた。

05 桓武天皇は地方支配の再建のため、国司交代の際の不正を監督する〔 〕という令外官を新設した。また、唐の脅威が薄らぐ中、792年には一部を除いて軍団を廃止して民衆の負担を軽減し、代わりに富裕な郡司の子弟からなる少数精鋭の〔 〕を置くこととした。

06 弟の〔 天皇 〕に対し、兄の〔 上皇 〕は愛人〔 藤原 〕のために平城京への遷都と重祚を案じた。

07 嵯峨天皇は〔 〕・巨勢野足を蔵人頭に任じ、810年の〔 〕で兄・平城上皇の重祚を阻んだ。この事件で式家が没落した。

08 嵯峨天皇は、蔵人所のほか、京都の治安や警察・裁判権を握った天皇直属の〔 〕などの強力な令外官の設置を進め、天皇権力の確立につとめた。

09 嵯峨天皇の命で、最初の格式集である『 』が藤原冬嗣によって編集された。以後の貞観格式、延喜格式と合わせて〔 〕と総称されるものの最初である。

10 嵯峨朝では養老律令の官選注釈書である『 』が、学者の清原夏野によって編集された。

01 平安前期、嵯峨天皇から清和天皇の唐風の文化を〔 文化 〕とよぶ。律令国家運営に必要な素養となる文芸を重んじる〔 〕の思想が発達し、『**凌云集**』などの〔 漢詩文集 〕が国費で編集された。

02 このような風潮の中で、藤原氏などの有力貴族は一族の教育の便宜のために〔 〕を設けた。

03〔 〕は最澄が開いた宗派で、比叡山延暦寺がその中心寺院となった。この宗派は、〔 〕・円珍らにより密教化がすすめられ、〔 〕と呼ばれた。

04 空海が開いた〔 〕は、高野山金剛峰寺を中心に発達した。空海は嵯峨天皇から〔 寺 〕を賜り、密教をいちはやく朝廷に持ち込んだ。

05 奈良時代の仏教を顕教と呼ぶのに対し、平安仏教は、〔 〕とよばれる。これは〔 〕により現世利益を求めることが貴族にもてはやされた。

06 奈良時代に始まる、神々への信仰と仏教との混在状態を〔 神仏 〕という。そのうち、山岳信仰と仏教が融合した修行方法を〔 〕という。

07 平安時代初期の仏像制作では〔 造 〕のやり方が主流となり、〔 式 〕とよばれるなまめかしい表現方法が発達した。

08 密教絵画では、独自の世界観を図で表した〔 〕が発達した。神護寺や教王護国寺〔東寺〕のものが代表的である。

09 唐風の書道の名手として〔 〕とよばれる三人の書の大家が現れた。

10 平安仏教は山岳での修行を中心としたので、寺院は山岳に自由な伽藍配置で建てられた。例えば女人高野とよばれる〔 寺 〕は山の斜面を利用し、金堂・五重塔などが自由に並んでいる。